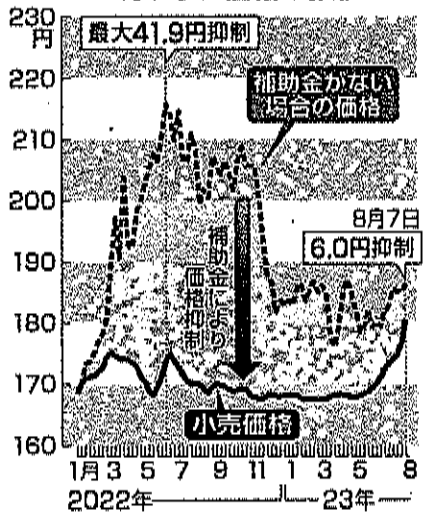


ガソリン価格の推移



(ガソリン価格はレギュラーの1ℓ当たり
全国平均。経済産業省の資料に基づく)

ガソリン小売り 15年ぶり180円台

経済産業省が9日発表したレギュラーガソリン1ℓ当たりの店頭小売価格(7日時点)は、全国平均で前週比3円60銭高の180円30銭でした。12週連続の値上がりで、180円台を達したのは2008年8月以来15年ぶりとなります。夏のレジャーやお盆の帰省で車を運転する機会が増える中、家計には打撃となりそ

うです。

ガソリン価格の上昇は、足元で原油価格が高騰していることに加え、政府が価格急騰対策として支給している補助金を6月から段階的に縮小しているのが主因。全都道府県で値上がりしており、最高値は長野県の189円90銭で、山形県の186円70銭が続きます。

原油高の沈静化を受けて、政府は6月以降、助成率を2週間ごとに10%ずつ

縮小しており、今月10日以降は40%となります。ただ、政府が基準価格とする168円と、予想小売価格との差が拡大していることから、10日以降は追加補助を実施します。

これまでに約6兆円の国家予算を投じた補助金の支給は、9月末で終了する予定。